

平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【福岡県】

福岡県立早良高等学校

1 実践テーマ	【 III ・ V 】
2 実施対象者	福岡県立早良高等学校 3年4組、5組 男子3名、女子13名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (保健体育) ② 行事名 () ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	ブラインドサッカーという競技があることを知り、スポーツに対する興味関心を向上させるとともに、視覚を失うといかに他の感覚が補足的に集中力を増すか体感するとともに、視覚に障がいのある方の気持ちも感じ取ることにより、スポーツを通じて様々なことを学ぶこと。
5 取組内容	全8回のブラインドサッカーの授業を実施した。 第1回目の授業では、ブラインドサッカーとは？という段階からのスタートで、ブラインドサッカー日本代表の試合の動画等を見せてイメージ作りを行った。 第2回目では、実際に専用のボール（鈴入り）を使用し、顔を上げてボール（足元）を見ない状態でのボールタッチを練習した。 第3回目では、アイマスクを着用しガイドからの声や手拍子で攻撃方向を判断し、ボールを運ぶ練習を行った。 第4回目と第5回目では、攻撃と守備の1対1ゲームを行った。壁役とガイド役を周りの生徒が担い、攻撃側と守備側にそれぞれ大きな声で指示を出していた。実際にアイマスクを着用し攻撃や守備をすることは非常に難しく、形になるまでにかかなりの回数を重ねた。 第6回目では、1対1から2対2まで発展させてみた。味方にパスをする等の高度な技術はできず、4人がボールを取り合う状況だった。 第7回目と第8回目では、ゴールを置き、2対2ではあるが試合

	<p>形式のブラインドサッカーを行った。1グループがプレーヤー2人、ガイド1人、コーチ1人の4人で3グループ作り、試合2グループ、壁役1グループで行った。ゴールキーパーはつけずプレーヤーはガイドの音がする方向へシュートを狙った。コートはバレーボールコート（18m×9m）で実施した。</p> <p>事前アンケートでは、ブラインドサッカーを知らない生徒たちで、不安や恐怖を感じていたが、ビデオでイメージを持ち少しずつ慣れていくことで、とても楽しんで活動することができた。また、事後アンケートでは、パラリンピックに興味を持った生徒が9割で実際に体験してみて多くのことを感じたようだ。</p>
<p>6 主な成果</p>	<p>今回の授業を行ってみて、スポーツに大切な「する・見る・支える・知る」のすべての要素が詰まっていた授業ができたと思う。</p> <p>「する」では、実際に見えない状態でサッカーを体験できた。「見る」では、いままで知らなかったブラインドサッカーを動画を見て、その後、実際に友人たちが行っているのを見ることができた。「支える」では、目が見えないプレーヤーにガイドとして声をかけたり手拍子を打ったりすること、コーチとしてコートの外からプレーヤーに指示を出すこと、壁役として情報提供をすることができた。「知る」では、ブラインドサッカーという種目を知り、視覚を使わないと聴覚に集中していくこと等を体感的に知ることができた。</p> <p>多くの気づきがある授業で生徒達はとても楽しく、やりがいを持って取り組むことができていた。また、大きな声や手拍子などで人を助けてあげることが積極的にできていてコミュニケーション力も向上したと思う。</p>
<p>7実践において工夫した点 （事業の特色）</p>	<p>まずは私自身がブラインドサッカーについての知識を身に付け、生徒に指導した点である。また、全8回の授業計画を事前に立て、少人数の授業でスローテンポかつ細かく確実に技術を身に付けることに取り組んだ点である。</p>
<p>8主な課題等</p>	<p>実際にアイマスクを着用しボールを奪い合うことは難しいし恐怖があると思う。特に守備側は「ホイ」という言葉を発することを忘れがちであるためぶつかることもあった。ボールを持っていないプレーヤーが「ホイ」ということを徹底しないといけないが、目が見えない状態でボールを探すことと「ホイ」と発することの練習を繰り返す必要があると思う。</p>
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<p>今回初めてブラインドサッカーを授業の中に取り入れたが、好奇心旺盛な生徒たちが多く選択してくれるようであれば、来年度も実施したいと考えている。また、来年度実施するようになれば、今年度の反省を生かし、授業作りをさらに工夫したい。</p>